

入選

## 今まで気づかなかったこと

滋賀県 石山中学校 二年  
干場 美楽

私は、コロナ禍を通じて、普段は気に留めることもないようなことに気づきました。

例えば、体調を崩さない限り関わることがほとんどない医療機関についてです。コロナ禍になったことで、大幅に利用者が増えた医療機関では、医療従事者の方々の過重労働が問題になりました。そんな中、ニュースでは医療従事者の方々へ対する、応援メッセージや感謝のメッセージがよく紹介されていました。

私はそれを目にするようになってから、世界中の人々が団結していることを実感しました。また、学校でも友達同士でふとしたときに、お互いの体調を気づかたり、

「辛かったら、無理せんときや。」

などと、相手を思いやる言動が増えたように思います。授業中に具合が悪くなって、早退する子がいたら、周りの人が進んで帰る準備をしてあげたり、保健室に行く子がいたら、先生に報告して付き添ってあげたりなど、親切な行動はコロナ禍になってからよく見られます。

しかし、感染が拡大しているうちは、様々な場面での制限があります。そうすると、どうしても友達同士でいっしょにできないことが増えてしまいます。

だからこそ、マスクで表情が見えなくても、一生懸命に相手の気持ちを考えて、心の距離を縮められるようにみんなが努力していました。

私は今まで、自分以外の方が誰かに親切にしている、あまり気にすることがありませんでした。誰かの親切な行動に気づいても、「あの人は優しいな」と思うくらいで、その行動に対するありがたみを考えることなど、ほとんどありませんでした。

でも、コロナ禍を経て、周りの人が声をかけ合ったり、笑顔であいさつしているところを見かけるだけで、みんなが温かい気持ちになっているんだろうな、と無意識に思うようになりました。

コロナ前はまったく気づかず、考えることもなかった小さな親切は、コロナによって私の前に現れてきたような気がします。

気づけなかったことに気づくことができたからといって、コロナになって良かったとは思わないけれど、私は人が人を思いやる理由がわかりました。

これからは、人を思いやって親切な行いをするときは、その行動の意味を考えて、相手にとって一番必要な思いやりを持って接するようになりたいと思います。